

屋根瓦の葺き替え工事

※新築の場合も、①②以外は同じです。



瓦をはぐり痛んでいる個所を補修、交換します。その他の大工工事もこの時行います。下地ごと交換する場合と、既存の下地の上に下地合板（ベニヤ板）を張る方法があります。



写真は既存の下地の上に下地合板を張り、軒先の端小舞（はなこまい）と呼んでいる部分を新調した状態。



ゴムアスルーフィングなどの下葺き材を張ります。葺き止めと言われる部分の下地も作ります。



縦棧テープを張り、下地がなるべく平坦になるよう瓦棧木を取り付けます。谷部の板金部材等も新調した後、瓦を配っていきます。



棧木に、瓦を引っ掛けながら、ステンレススクリー釘で取り付けしていきます。下地+瓦棧で瓦の荷重を支えます。



和風瓦、F型（平板瓦）を問わず、瓦には「かみ合わせ部分」があり、耐震性、耐風性にも優れています。



瓦葺きが終わったら、棟を作る準備をします。棟下地に人工木材を固定する金具を留め、面戸（めんど）というふたの役目を果たす瓦を緊結し、棟土が、水を吸い上げるのを防ぐための瓦のかけらを敷き詰めます。

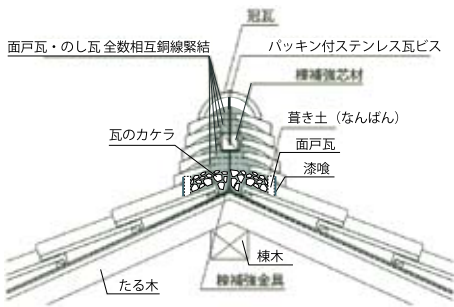


葺き止め部分にも、下地に面戸を取りつけて、同じように瓦のかけらを敷き詰めます。葺き止め下地とは、この面戸やのし瓦を緊結するための下地です。

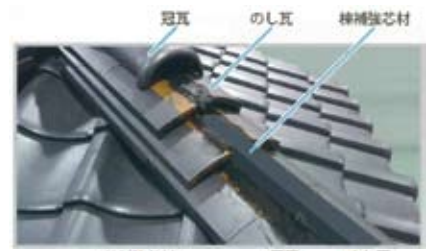


樹脂製の人工木材を取りつけた後、棟土（なんばん）を使い棟部分を仕上げていきます。面戸の部分は、漆喰で塞ぎます。漆喰の色はお好みで白と黒が選べます。

棟の構造 (断面図)



のし瓦をお互いに緊結しながら、積み重ねて行きます。のし瓦〇段と言われるのは、この積み重ねる段数の事です。



棟補強金具



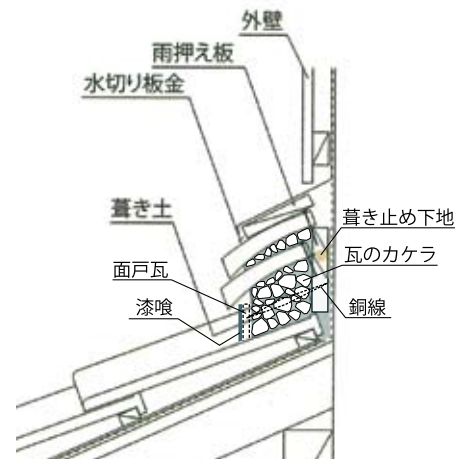
雨押さえ板
水切り板金
のし瓦

葺き止め部分も同じように、のし瓦を葺き止め下地に緊結しながら積み重ね、雨押さえ板と、水切り板金を取り付けます。(右図参照)



壁面と屋根面の接続部分は、雨漏りの原因になりやすく、丁寧な施工が求められます。付帯工事の「外壁の作業」は、主にこの工程によるものです。

葺き止め部分の構造



瓦ビス
冠瓦

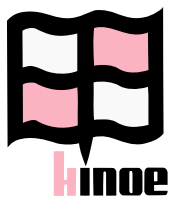
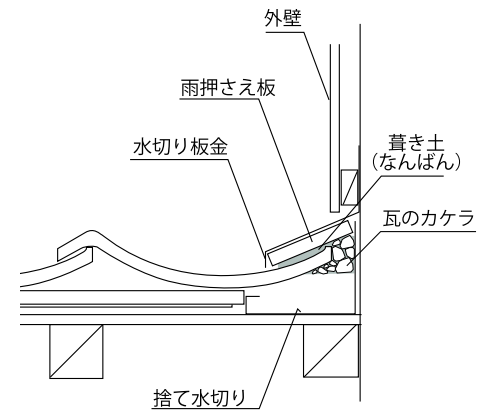
最後に、冠瓦を棟の中の人工木材にビス止めして完成となります。



軒先瓦
袖瓦

袖部や軒先部は、強風の影響を受けやすいので、瓦ビス止め施工で補強します。

壁との境目部分の構造



きのえ
有限会社 甲瓦工業

一級かわらふき技能士 瓦屋根工事技士 在籍

砺波市五郎丸502-1 TEL 0763-33-2719 / FAX 33-1006

携帯電話 090-3766-9494 (担当 中谷)
info@kinoekawara.com



どんな些細な事でもお気軽にご相談ください。